

# 付きたい力

学習対象(教科)の本質を探る教材研究と子ども理解とを重ね合わせた授業づくり

- 単元の本質をとらえる
- (学習前の)児童の実態をとらえる
- 教材の特性を生かす
- 単元終了後の子どもの姿を描く

課題を発見し、「見方・考え方」を働かせる

## 質の高い課題や問いの視点

既にもっている知識や経験を基に、課題発見・解決の過程を通し、教科等の本質に根ざした「見方・考え方」の獲得や自己の生き方と結び付く見識の獲得につながるような質の高い課題や問いを設定する。

- 考える楽しさ、必要感や切実感を生む課題
- 既習の経験や知識を生かし、解決の見通しをもてる課題
- 実社会や日常生活との関わりを見いだす課題
- 問題に発展性があり、探究的な学びのプロセスにつながる課題
- その子なりの見方・考え方、価値観を基に多様な考えを引き出す課題



課題に関して深く思考し、自分の考えを導き出す

## 思考活動・思考操作の視点

問題解決の目的や状況等に応じて考えるための情報を獲得し、知識や考えを強化・付加・修正させる思考活動が連続・発展的に展開されるよう工夫するとともに、身に付ける力や考え方を(子ども自身に)意識化させる。

- 学習対象に対する、自分の考えや見方・考え方を明らかにする活動
- 思考過程や考えの可視化、顕在化
- 「比較」「関係付け」「統合」を基盤とした思考による考えの整理・深化

◎学習課題に対して、自分の考えを明確にする。  
・既有知識や見方の掘り起こし、考え方の枠組みづくり

### はじめの認識の形成



外化

内化

◎自分の考えを多面的に問い直す。  
・学習対象や他者がもつ新たな知識や見方・考え方への気付き

### 思考の活性化

「承認」「合意」



多様な表現を通じて多面的で総合的な深い理解を生み出す

## 対話場面の視点

創発的なコミュニケーションの中で、他者との対話が学習対象に対する見方・考え方を広げ、さらに対象をとらえ直す自己内の対話を生み出すという営みを学びの場につくる。

- 多様な学習形態の工夫
- 対等な立場でのかかわり合い
- 目的による対話場面の重点化

◎自分の考えを、本質を探りながら再構成する。  
・新たな知識・技能を取捨選択、組み立てながら活用  
・分かったことやできるようになったことを表現する場

「実感」「納得」

学習への主体的な取組や成果を明確にする

## 評価・振り返りの視点

個の学びや他者との対話的な学びの過程を振り返り、自己の変容や成長を自覚するとともに、学びに対する新たな価値や意義を感じられるよう、学びの振り返りや学び方を自覚する機会を設定する。

- 学習者の活動の振り返りと教師の価値付け(思考のプロセス・結果、他者のかかわり)
- 新たな問いの生成
- 教科の見方・考え方による現実世界の捉え直し

知の更新・創造



新たな学習への意欲

## 思考力

- 問題解決・発見・創造力
- 論理的・批判的思考力
- メタ認知・適応的学習力